





---

▼▼「安全の旅に終わりはない！！」▼▼

～運輸安全マネジメントへの取組みのさらなる向上を目指して～

---

社団法人日本海事検定協会（NKKK）主催、九州運輸局及び（財）九州運輸振興センター後援の運輸安全マネジメントセミナーが2月24日（木）、福岡市のホテルセントラザ博多において開催され、運輸事業者など約170名が運輸事業の安全の更なるレベルアップを目指して講演に熱心に耳を傾けました。

（社）日本海事検定協会鬼塚会長の主催者挨拶、安藤九州運輸局次長の来賓挨拶に続き行われた講演では、（社）日本海事検定協会ISO事業関連部長 山田瑞哉、国土交通省大臣官房運輸安全監理官付首席運輸安全調査官 峰本健正、日本タンカー（株）取締役・安全推進本部事務局長 西村 充弘、（株）日通総合研究所安全コンサルティング部 担当部長 長濱 秀幸の4氏がそれぞれ「PDCAサイクルの基本的な考え方について」、「運輸安全マネジメントへの取組について」、「安全への取り組み」、「中小運輸企業の安全マネジメントについて」と題して、運輸安全マネジメントを進めていくにあつてのポイントや運輸事業者における運輸安全のための取組事例等について、判りやすく丁寧に説明をいただきました。

今回のセミナーは、平成18年10月に運輸安全マネジメント制度が導入され4年あまりが経過する中、各事業者におきましては、様々な安全管理に係る改善の取組みが推進されていますが、一部には、制度に対する理解が浸透していないこともあることから、これから運輸安全マネジメントの導入を目指す方々を対象に「運輸安全マネジメント制度」の一層の浸透・定着に向け検討する際の参考になるように開催されたものです。当日は、安全性の向上に向け高い意識をもって臨まれており、講師の説明にメモをとる姿が会場のあちこちで見られました。

運輸安全マネジメントでは、スパイラルアップ（PDCAサイクル）で安全の取組を向上させていくことが重要です。

九州運輸局では、今後も国土交通省や各事業者団体、その他関係機関とも連携を図りながら、運輸安全マネジメントセミナーの開催や運輸安全取組事例等の周知資料の作成・公表等を通じ、事業者の安全管理体制の構築・改善に関する支援活動を推進してまいります。

※運輸安全マネジメントセミナーの様子は、次のURLからご覧になれます。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_117.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_117.pdf)

（総務部 安全防災・危機管理調整官）

---

▼▼「めじろんnimoca」サービス開始▼▼

---

◆「めじろんnimoca」誕生！

「めじろんnimoca」は、大分交通（株）、大分バス（株）及び亀の井バス（株）の県内バス会社3社が初めて導入したICカード乗車券です。このICカードは、西日本鉄道（株）のICカード「nimoca」の方式を採用しています。

昨年12月26日に導入され、大分市内線ほぼ全域及び大分市内～竹田・佐伯・

臼杵などへの路線で利用可能です。また、3月20日からは別府市内、佐伯市内などで利用開始予定となっています。

大分市で行われたオープニングセレモニーには、大分県知事、大分市長、商店街の関係者などが多数参加し、期待の大きさを伺わせました。

#### ◆「めじろん」の由来

「めじろん」は2008年おおいの国体で活躍したキャラクター（現在は、大分県応援団“鳥”に就任。）で、このICカード乗車券の愛称に採用されました。nimocaのキャラクター「フェレット」とともに、カードのデザインにも描かれています。

#### ◆「めじろんnimoca」の特徴

##### ① 全国的にも珍しい「他社間での乗り継ぎ割引」を適用

「めじろんnimoca」を使って同じバス停で60分以内に乗り継ぐと、最大で60円、乗り継いだバスの運賃が割引になります。

なお、「めじろんnimoca」では、全国的にも珍しい他社間での乗り継ぎ割引を実施しています。

乗り継ぎの際にバス会社が変わっても割引になります。また、大分市内中心部のバス停31本が同一バス停という取扱いになっているためとても便利です。

##### ② 他の交通系ICカードとの相互利用が可能です

西鉄の「nimoca」、JR九州の「スゴカ」、JR西日本の「suica」、福岡市地下鉄の「はやかけん」などの交通系ICカードと相互利用が可能ですので、観光や出張などで大分を訪れる方や大分から関東、福岡等へ行かれる方が公共交通機関や商業連携した加盟店を利用する際にとっても便利です。

#### ～ お出掛け編 ～

とある休日に、大分運輸支局から大分県立図書館まで、「めじろんnimoca」を利用して、バスで出かけてみました。

#### ● <往路> 大分交通利用

大分運輸支局最寄りの「大洲運動公園前バス停」から大分市中心部に向かい「竹町バス停」で降車、「トキハ・フォーラス前バス停」で乗り換えて県立図書館へ。運賃はそれぞれ160円ですが、乗り継ぎ割引で乗り換え後の運賃は100円となりました。

#### ● <復路> 大分交通から大分バスへ乗り継ぎ

「県立図書館前バス停」から大分駅まで向かい「大分駅前バス停」で降車、途中、少し寄り道をして、「めじろんnimoca」が利用できる「海の幸 食堂よっちゃん」で少し遅めの昼食（お刺身丼）をいただき「めじろんnimoca」でお支払い、60分以内の乗り換えで、「竹町バス停」から「大洲運動公園前バス停」へ。運賃160円が乗り継ぎ割引で100円となりました。

#### ● 感想

乗り継ぐバス会社が変わっても割引が適用されるため、とても使い勝手のよいカードだと思いました。また、買い物や食事で利用できるというのも大変便利です！

#### ◆「めじろんnimoca」への期待

なお、「めじろんnimoca」が売り上げ枚数は、約8,380枚（2月26日の時点）、利用できる路線での利用率は4.3%とのことです。

導入されて間もないことや利用可能なエリアが主に大分市内ということもあり利用者はまだ多くありませんが、大分では他社間のバスを乗り継ぐケースが多いため、今後利用者は増加していくものと思われます。

また、大分市内では、大分駅付近連続立体交差事業に伴い、1日約5万台の車が通行する国道210号線大道（おおみち）陸橋の撤去工事が行われています。この工事は約7ヶ月間行われるため交通渋滞が懸念されており、大分県は、大分市内の交通渋滞緩和対策として公共交通利用促進を呼びかけています。

「めじろんnimoca」誕生により公共交通機関の利用者が増加するとともに、中心市街地の活性化や魅力あるまちづくりに繋がることが期待されています。

※オープニングセレモニーの様子は本件については、次のURLからご覧になれます。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_117\\_3.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_117_3.pdf)

（大分運輸支局）

---

#### ▼▼九州初「九州バリアフリー等連絡会議」を開催▼▼

---

九州運輸局及び九州地方整備局は、平成23年3月7日、福岡第二合同庁舎において九州では初めての「九州バリアフリー等連絡会議」を開催しました。

この会議は、高齢者、障がい者をはじめとする全ての人にとって、安全、快適に暮らしていける生活環境を実現するなど、バリアフリー化の推進について、地域に密着した情報の共有をはじめとした意見交換等を行うことで相互間の理解を深め、より良い協力関係を築き、連携してバリアフリー化の進展を目指すことを目的として設置しました。

会議では、九州管内のバリアフリーリーダー、高齢者・障がい者団体、交通事業者、自治体からの62名が参加し、国際医療福祉大学の齋場三十四教授を座長として、行政の施策や取り組みに関する報告、意見交換などが行われました。

バリアフリー施策の取り組みとして、九州運輸局より九州における旅客施設、車両等のバリアフリーの現状、及び現状を踏まえた今後の取り組みについて報告を行い、自治体からは、情報提供としてパーキングパーミット制度、みんなのトイレの設置、携帯電話・デジタルテレビからも使用可能なバリアフリーマップ情報の開設。

啓発活動として小中学校を対象とした出前講座、交通事業者・旅館を対象とした総合学講座、ユニバーサルデザイン実践のための手引書の作成などの取り組み報告がありました。また、交通事業者からは地域の実情に応じた旅客施設の整備に取り組んでいきたい、業務研修を計画的に実施していく。との報告がありました。

意見交換では、障がい者等団体から「外見上わかりづらい聴覚障がい、発達障がい等、障がいにも多種多様であることを理解し、バリアを感じさせない支援体制を強化していただきたい。」「日本のハード整備は世界的にも進んでいる。バリアフリー・ユニバーサル化による機械化が進み、これからはサポートする人が必要となってくる。」などの意見が出されました。

